

うぐいす 原民喜

うめ はな さ 梅の花が咲きはじめました。がっこう もん 学校の門のところにあるうめ こうえん いけ 公園の池のほとりにあるうめ しず はな 静かに花をひらきました。ゆうじ いえ にわ はくばい き 雄二の家の庭の白梅も咲きました。

はな ひ 花に 陽があたると、しろ はな 白い花はパッとうれしそうにかがやきます。ひかげ えだ 日蔭の枝にあるはな しず あおぞら 静かに青空をながめています。うめ はな 梅の花はみんなじっと何かを待っているようでした。

ゆうじ いえ にわ き 雄二の家の庭さきに、あるあさ 朝、うぐいすがやって来ました。ホーホケキョ ホーホケキョ うぐいすはうめ えだ 梅の枝にとまってふたこえみこえ 二声三声さえずりました。が、すぐにへいをとびこえて、どこかへとんで行ってしまいました。

そのよくあさ 翌朝もまたうぐいすがやって来ました。こんどは、ゆうじ いえ にわ き 雄二の家の庭が気に入ったのか、すこ 少しゆっくりしているようでした。うぐいすはうめ き えだ えだ 梅の木の枝から枝へじょうず 上手にとびうつつてあそ 遊んでいました。が、しばらくすると、またへいをとびこして行ってしまいました。

うぐいすはまいあさ き 毎朝やって来て、だんだんゆうじ いえ にわ す 雄二の家の庭を好きになるようでした。えんがわ ほう ゆうじ み 縁側の方から雄二たちが見ている、あわてて逃げだすようなことはありません。

にちようび あさ 日曜日の朝でした。

『よし、あのうぐいすをひと しゃしん 一つ写真にうつしてやろう』と、ゆうじ ちち さつそく 雄二の父は早速カメラを持ってえんがわ あらわ 縁側に現れました。

『とれた、とれた、うまくとれたぞ』

ちち 父はうれしそうでした。ゆうじ しゃしん で き はや み 雄二もどんな写真が出来るのか早く見たくてたまり

ませんでした。五日ほどして、うぐいすの<sup>しゃしん</sup>写真は<sup>できあが</sup>出来上りました。それは庭の<sup>くろ</sup>黒べいと<sup>うめ えだ</sup>梅の枝が<sup>くろ</sup>黒くうつついて、<sup>しろ はな</sup>白い花とうぐいすの<sup>すがた</sup>姿がくっきりと<sup>うきで</sup>浮出ている、<sup>しゃしん</sup>すばらしい写真でした。雄二は父からその<sup>ゆうじ ちち</sup>写真を一枚<sup>しゃしん いちまい</sup>もらいました。

けれども、その<sup>しゃしん</sup>写真が<sup>でき</sup>出来た頃<sup>ころ</sup>から、うぐいすは雄二の<sup>ゆうじ いえ</sup>家の庭に<sup>にわ</sup>姿<sup>すがた</sup>を見せ<sup>み</sup>なくなりました。どうしたのかしら、どうしたのかしら、と、<sup>ゆうじ</sup>雄二はしきりにさびしくなりました。

<sup>ゆうじ</sup>雄二はうぐいすの<sup>しゃしん</sup>写真を<sup>い</sup>ポケットに<sup>い</sup>入れて<sup>がっこう</sup>学校へ<sup>い</sup>行きました。

『<sup>ぼく</sup>僕の<sup>き</sup>うちに<sup>き</sup>来ていたうぐいすだよ』

『<sup>やまだくん</sup>そうかい』と、<sup>め</sup>山田君は<sup>め</sup>目をみはりました。

<sup>ゆうじ やまだくん</sup>雄二は<sup>いえ</sup>山田君をつれて、<sup>き</sup>家にもどって<sup>き</sup>来ました。が、<sup>にわ</sup>庭に<sup>き</sup>来てみても、<sup>き</sup>やはりうぐいすは<sup>き</sup>いませんでした。<sup>ゆうじ やまだくん</sup>雄二と<sup>しゃしん</sup>山田君はその<sup>にわ</sup>写真と<sup>うめ</sup>庭の<sup>き</sup>梅の<sup>み</sup>木を見くらべて<sup>しら</sup>調べて<sup>しら</sup>みました。ちょうど、あの<sup>えだ</sup>うぐいすが<sup>み</sup>とまっていた<sup>えだ</sup>枝が<sup>み</sup>見つかりました。

『あそこ<sup>き</sup>のところにとまっていたのだね』

『うん、あそこ<sup>き</sup>のところだ』

『あそこ<sup>なに</sup>のところ<sup>なに</sup>に何か<sup>なに</sup>しるし<sup>なに</sup>つけておこう』

<sup>やまだくん</sup>山田君は<sup>しら</sup>ポケットから<sup>とりだ</sup>白い<sup>とりだ</sup>ひもを<sup>とりだ</sup>取出しました。そして、それをうぐいすの<sup>えだ</sup>とまっていた<sup>むす</sup>枝の<sup>むす</sup>ところに<sup>むす</sup>結び<sup>むす</sup>つけました。